

山口市環境センター  
精密機能検査業務仕様書

令和7年5月

山口市環境部環境施設課

本仕様書は、山口市が発注する山口市環境センター精密機能検査業務（以下「業務」という。）に適用する。

## 1 業務の目的

精密機能検査は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第5条の規定に基づき、し尿処理施設の機能を保全するために、施設の概要、運転管理実績、設備・装置等の状況を調査し、これらの結果と維持管理基準及び設計基準とを比較して、処理機能を検討するとともに、設備・装置・機器類の状況を検査し、必要な改善点、整備内容等の指摘を行い基幹的設備改良工事を用いた施設の延命化を目的とする。

(1) 業務名 山口市環境センター精密機能検査業務

(2) 実施場所 山口市小郡上郷12200番地

(3) 対象施設 山口市環境センター

圧送能力 525 m<sup>3</sup>/日

処理方法 前処理＋下水道施設圧送

竣工 昭和56年9月

下水道施設供用開始 平成28年4月

(4) 実施期間 業務着手期日 契約締結日の翌日

業務完了期日 令和8年 3月31日

## 2 業務の範囲

仕様書で定める業務の範囲は次のとおりとする。

(1) 必要な検査・分析の実施及び改善点の指摘

(2) 報告書の作成

## 3 精密機能検査の内容

検査内容については、別紙「特記仕様」によるものとする。

## 4 関係法令の遵守

業務の実施に当たっては、関係法令を遵守すること。

## 5 監督職員、現場代理人及び主任技術者

(1) 業務の実施に当たり山口市は監督職員、受託者は現場代理人及び主任技術者を定め相手方に書面を持って通知するものとする。

(2) 主任技術者は、技術士法に定める技術士（衛生工学部門）の有資格者であり、し尿処理施設の精密機能検査業務に従事した経験を有する技術者とする。

## 6 協議

受託者は、円滑な業務の遂行のため山口市の監督職員と事前に協議を行うものとする。

また、関係する官公署との協議を必要とするとき、及び協議を求められた場合は誠意をもってこれにあたり、協議の内容を議事録としてまとめ、遅滞なく山口市に報告しなければ

ばならない。

## 7 資料の貸与

業務において、既存調査資料等、山口市が保有する資料で業務の実施上必要なものは貸与することができる。受託者が、資料の貸与を受ける場合は、そのリストを作成し、山口市の承認を受け、貸与された資料は業務完了時に全て返却すること。

## 8 提出資料

受託者は、業務委託契約を締結後速やかに、業務着手届、現場代理人等選任届（経歴書添付）を山口市に提出すること。

また、監督職員と協議して、作業計画書及び工程表を遅滞なく提出すること。

## 9 秘密及び中立性の保持

受託者は、業務の遂行において知り得た事項を他に漏らしてはならない。

また、中立性を厳守しなければならない。

## 10 疑義

受託者は、業務の実施に当たり、仕様書に不備又は疑義が生じた場合は、山口市と十分協議の上、遺漏のないよう業務を行うものとする。

## 11 業務内容の変更等

仕様書の内容についての変更は認められないものとする。ただし、山口市が必要と判断した場合、山口市と受託者による協議により変更する場合はこの限りではない。

また、成果品の中に仕様書に適合しない箇所又は訂正箇所が発見された場合は、改善、変更、訂正、追加等を受託者の責任と費用負担において行うものとする。

## 12 業務の完了

受託者は業務の完了に際し、山口市による業務完了検査（成果品検査）を受けるものとし、検査合格をもって完了とする。完了検査に合格後、遅滞なく業務完了届とともに仕様書に指定された成果品（報告書等）を山口市に提出すること。ただし、業務内容に変更が生じたり、又は期間延長の必要がある場合は山口市と協議の上、変更するものとする。

## 13 成果品等

成果品は原則としてA4版印刷とし、以下のとおりとすること。

- |                        |    |
|------------------------|----|
| (1) 山口市環境センター精密機能検査報告書 | 5部 |
| (2) 上記電子データ（CD-R）      | 1式 |

## 14 その他

仕様書に定めない事項については、別途協議し行うものとする。

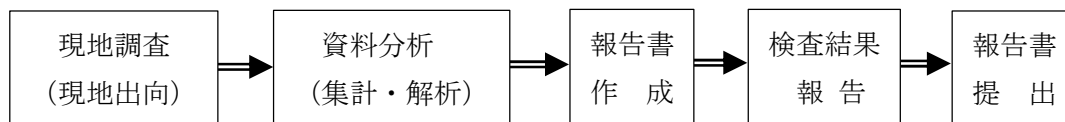
## 特記仕様

### 1 検査実施工程及び内容

#### (1) 検査の実施工程

検査の実施工程は、次に示す現地調査から報告書提出までの一連の作業とする。

なお、現地調査の日程等については事前に山口市に連絡し承認を得るものとする。



#### (2) 検査内容

##### ア 事前調査

施設の概要の把握や現地調査の円滑化を図るため、事前調査を行うものとする。

なお、事前調査は必要に応じて文書のやり取りでも可とする。

##### イ 現地調査

###### (ア) 聞き取り調査

施設の概要、運転状況等を把握するため、現地にて聞き取り調査を行うものとする。

###### (イ) 試料採取

試料採取については、別紙の「試料名と分析項目」とするが、試料採取、測定等の箇所については山口市と協議の上、実施すること。

###### (ウ) 設備・装置の状況検査

設備、装置、機器類の状況検査は、作業の安全に十分留意し、危険性のある検査については、適切な対策を講じること。

#### (3) 方針検討報告書の作成

精密機能検査報告書の結果より、基幹的設備改良工事等を用いた施設の延命方針を検討する。

### 2 検査要領

検査は、「一般廃棄物処理事業に対する指導に伴う留意事項について」（昭和52年11月4日付け環整第95号、改正：平成2年2月1日環整第22号）の5項、別紙4による「一般廃棄物処理施設精密機能検査要領」を基本とし、具体的な内容は次のとおりとする。

#### (1) 施設の概要

処理方式、計画処理能力、改造工事の有無、処理フロー、主要設備の仕様内容、作業人員等について調査する。調査は聞き取り及び資料（書類等）により行う。

#### (2) 維持管理実績

維持管理実績調査は、現地調査時の聞き取り及び資料（管理実績等の書類）により行う。

##### ア 搬入実績

し尿及び浄化槽汚泥の搬入量の経年変化、計画処理量に対する割合、浄化槽汚泥混入率、月変動係数等について調査する。

イ 運転実績

投入量、汚泥処理量、希釈水量等、圧送水量、電力使用量、各薬品使用量等の運転実績を調査する。

ウ 維持管理費

電力費、薬品費、設備・機器補修費、水槽清掃費等について調査し、類似施設の実績値との比較、検討を行う。

エ 補修・改造実績

各処理工程毎の主要な整備内容について調査する。

オ 定期検査結果

定期的に実施している、圧送水等の検査結果について調査する。

(3) 維持管理状況

維持管理状況調査は、現地検査時の聞き取り及び資料（管理実績等の書類）により行う。

ア 施設の管理状況

維持管理人員、資格取得状況等について調査する。

イ 運転状況

受入貯留、前処理(汚泥処理)、脱臭処理、汚水圧送等の工程毎に日常の運転状況について調査する。

ウ 水質分析状況

施設内で実施している水質分析等の項目、頻度について調査する。

エ 定期点検状況

各水槽の清掃、設備・機器等のオーバーホール、定期点検の内容について調査する。

オ 書類の点検、保存状況

基本図書（設計書、図面等）、運転記録（日報、月報等）、参考図書等の点検、保存状況について調査する。

(4) 設備・装置の状況

設備、装置、機器類の状況検査を外観、触診により行う。検査結果は各水槽を含めて、支障なし、要補修、要更新、要改造等に分けて判定し、その箇所を一覧表に示すとともに、主要部の写真を掲載する。

ア 土木、建築設備

各設備について、亀裂、破損箇所の有無、不等沈下、漏水・浸水の有無、水槽内部の状況等を検査する。

イ 機械設備

各設備について、腐食、損傷の有無、装置の振動、異常音、温度上昇、その他軸受け等のオイル、グリスの補給状況及び損傷、磨耗等を検査する。

ウ 電気・計装設備

各設備について、腐食、損傷の有無、絶縁の良否、その他配線、安全器の状況等を検査する。

エ 配管・弁設備

各設備について、腐食、損傷の有無、接続箇所等の漏水、浸水の有無、その他弁類の作動の良否を検査する。

オ その他

全体的な水位高低関係、悪臭の発生箇所等を検査する。

(5) 処理機能状況

ア 水質等の分析（別紙：試料名と分析項目参照）

各工程における処理機能を把握するために必要な、し尿、浄化槽汚泥、圧送水等の各処理工程毎の水質分析及び汚泥処理工程の汚泥分析を行う。

イ 臭気測定（別紙：試料名と分析項目参照）

脱臭工程における処理機能を把握するために必要な脱臭設備の出入口において、検知管を用いて硫化水素、アンモニア等の悪臭物質の測定を行う。

ウ 処理条件と処理効果

水質等の分析結果、臭気測定結果及び運転管理実績を基に受入前処理工程、脱臭工程、圧送工程について各処理工程毎の処理機能を設計基準と比較、評価する。

3 総括

各項目の調査、検査結果を総合的にまとめるとともに、改善点を指摘する。

また、施設及び機器等の耐用年数を考慮し、今後の施設の延命方針について検討する。